

平成30年度

第2回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録

(平成30年9月 第二回)

- 1 日 付 平成30年9月8日(土)
- 2 場 所 上今泉コミュニティセンター
- 3 出席者
- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 市長 | 内野 優 | 教育長 | 伊藤 文康 |
| 教育委員 | 海野 恵子 | 教育委員 | 松樹 俊弘 |
| 教育委員 | 平井 照江 | 教育委員 | 酒井 道子 |
- 4 事務局
- | | | | |
|-----------------------|--------|----------------------|--------|
| 教育部長 | 岡田 尚子 | 教育部次長
(総務・社会教育担当) | 金指 太一郎 |
| 教育部次長
(学校教育担当) | 小宮 洋子 | 教育部専任参事
(財務担当) | 伊藤 修 |
| 参事兼教育総務課長 | 中込 紀美子 | 就学支援課長兼
指導主事 | 小林 丈記 |
| 教育支援課長兼
指導主事 | 和田 修二 | 教育支援課教育
支援担当課長 | 麻生 仁 |
| 学び支援課長兼
若者支援室長事務取扱 | 小林 誠 | 教育総務課総務
係長 | 阿部 優文 |
| 教育総務課主任
主事 | 工藤 麻由子 | | |
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
- (1) 教育大綱について
 - (2) 学校施設再整備計画について
 - (3) 東柏ヶ谷小学校児童会から学校生活に関する提案について
- 7 閉会時刻 午前11時30分

○**教育部長** ただいまから、海老名市総合教育会議を開会いたします。

私は、教育委員会教育部の岡田と申します。よろしくお願いいたします。

なお、進行につきましては、本日お配りしてございます次第によって進めさせていただきます。

初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。

まず初めに、内野市長、よろしくお願いいたします。

○**内野市長** おはようございます。今回第2回目の海老名市総合教育会議、教育委員の皆さん、また傍聴されている皆さん、学校関係者の皆さん、ありがとうございます。

この総合教育会議は、各市で実施していますが、年2回ぐらいやって終わっているところもありますし、あるいは1回で終わっているところもありますけれども、海老名市は各中学校区とかへ出てお話をしよう、あるいは児童生徒の話も聞いていこう、あるいは傍聴人の皆さんや学校関係者の皆さんの意見も聞こうという形で進んでまいりました。そういった面では私はさまざまな良いご意見をいただいておりますし、今後そういったことを参考にしながらやっていきたいと思っています。今日もよろしくお願いいたしますと思います。

なお、今年の7月から8月にかけて台風が多く発生して、西日本では大きな被害がありました。亡くなられた方もいらっしゃいますし、まだ復旧までに至っていない方もいらっしゃいますけれども、私ども市としてできることという形で、依頼があったパッカー車の派遣も行いました。台風ですから、進路がそれる等多少の予測ができます。さらに海老名市では、気象予報士を1人職員として採用しております。そのために採用したわけではありません。何でも屋ですけれども、ほかの仕事をやりながら天候の予測をしていただいて、それが的確に当たりまして、いろいろな準備ができます。そういった面で大きな被害がなかったということはよかったですと思いますが、しかしながら、ほかの地域ではあった。

台風22号が通過してほっとしたなと思ったら、北海道で地震がありました。相当な被害で、震度7と言われております。亡くなられた方も多くいらっしゃいますし、これからが大変だろうと思っていますけれども、市としてできることは、登別から、水を使わない食料、水を送ってほしいという話がありまして、一昨日、要請があったその日に送りました。しかしながら、北海道というのは海を渡らなければいけないので、1日以上かかって、昨日支援物資が届けられました。その後に燃料を送ってくれという話がありましたけれども、ライフラインが復旧したので、第2陣は必要はないということで安心をしています。

では、海老名に置きかえるとどうかというと、食料は大丈夫です。被災した市民の方が3日間食べられる24万食の食料を備蓄しておりますし、あるいは水も大量に備蓄しております。燃料はというと、救急車や消防自動車、あるいは発電機に使う燃料はガソリンスタンドを海老名市は購入しております、そこに備蓄しておりますから、ある程度そういった部分は大丈夫ですけれども、何といたっても地域の皆さんの共助、お互いに助け合う、そういったことが今必要ではないかなと思っています。そういう観点では避難所訓練も行っておりますし、いざというときにどうするかという問題があります。

今後も北海道の地震や、あるいは西日本の水害の関係で私どもが教訓とすることは教訓として、13万2000人の市民が安全で暮らせるようにしていきたいと思っています。

今日は短い時間ではありますが、よろしく願い申し上げます。

○**教育部長** ありがとうございます。

続きまして、伊藤教育長、お願いいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。第1回目は、先ほど市長からもあったのですが、台風が来て、これが第2回目なのですが、1回目は延期をしているような状況でございます。先ほど市長からあったように、地震等がありまして、私もそのたびそのたびにはいろいろなことを想定するのですけれども、もちろん行政は行政としてしっかり訓練はしているところなのですけれども、そういう中で言うと、自分自身で実感するのは、のどもとを過ぎると、そのときはこうだと思っただけけれども、本当に自分がそれに備えているかということ、そのあたりはやはりまだまだ甘いかなと思っています。そういう中で受けたものを、我々としては子どもたちをどう守るかとか、学校施設にどうやって市民の方々に入っただいて、そこで暮らしていただけるか、過ごしていただけるか、そのあたりをもっともっと真剣に考えて、想定していくべきだなと思っています。

先日、各学校で避難所運営訓練が行われました。私としては、学校の教室を開放というのがありますから、その開放訓練とかなんかをしっかり始めたほうがいいかなと。今は想定はしているんだけど、実際にそうなったときに、例えば体育館に具合が悪い人が来られたとき、体育館にそのままいていただくのかということ、そうはいかないと思うので、それに合わせてさまざまな実態に合わせた訓練を学校としても教育委員会としても進める必要があるかなと今考えてございます。

総合教育会議については、ほかの市でこういう感じでやっているところはほとんどないです。これを市民の前で公表して、また子どもたちの意見を聞いてということなので、ま

た今年度も3回あります。ご参加いただいて、意見があれば意見を出していただいて、それを教育行政につなげていきたいと思っています。

きょうは東柏ヶ谷小学校の子どもたちが3名ここに来て、自分たちの今思っている思いを伝えてもらいます。私のほうはその中で、これを言われると困るなどというのはあるのですが、でも、それは素直にちゃんと子どもの意見として聞くべきだなと思っています。子どもたちは今どんなことを思っているのか、それを即座にやれるものもあるし、子どもたちが自分たちで工夫すべきものもあるし、市として市長さんと一緒に考えなければいけないものもあるだろうし、それをしっかり聞いて、対応することが大事かなと思っています。どうも大人が自分たちで想定しているのと、子どもが本当に欲しているものは違うような感じがしますので、本当に真摯に子どもの声を聞いて、それにそれぞれの立場で対応していきたいと考えてございますので、よろしくお願いします。

この後の残りの総合教育会議でも子どもたちからの提案がありますので、その点については市民の方々にも子どもたちの提案を聞いていただければありがたいと思います。これからよろしく願いいたします。

○教育部長 ありがとうございます。

では、協議に入る前に、総合教育会議につきまして簡単に説明をさせていただきます。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置されているものでございまして、今年で4年目となります。会議は市長と教育委員会とが自由に意見を交換する協議の場でありまして、また、その中で合意が図られた事項につきましては、双方ともその結果を尊重しなければならないとされております。

具体的な協議、調整事項は今3点ございまして、1つ目は教育大綱の策定、2つ目は教育条件整備など重点的に構すべき施策、そして重要な施策、3つ目としては児童生徒の生命・身体の保護など緊急の場合に講ずべき措置となっております。

なお、1つ目の教育大綱の策定につきましては、全国に先駆けまして、平成27年4月に策定しております。こちら対象期間は4年としておりまして、本年度が最終年度となっております。

それから総合教育会議の開催回数ですけれども、先ほど市長、教育長のほうから話がありましたとおり、第1回目は台風の影響で中止をさせていただきました。今期、第2回目でございます、今年度はあと2回開催する予定としております。

それでは協議に入りますが、会議中、市長から保護者の皆様を中心とする傍聴の方々に

も意見を求める場合がございます。その場合には、限られた時間でございますので、簡潔にお願いしたいと思います。ご協力をお願いいたします。

なお、本日の案件につきましては、お手元の次第でございますとおり、3件となっております。

それでは、ここからの協議の進行につきましては内野市長からお願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項の(1)教育大綱についてを議題といたします。

それでは、教育長からお願いいたします。

○伊藤教育長 教育大綱というものでございます。初めて見たと思うのですがけれども、私、教育大綱の最初のときの4月を覚えていますけれども、これは市長と教育委員と話し合っ、みんなの前で決めたものでございます。「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名を海老名市としては目指そうという教育大綱でございます。その中に「子どもと大人がともに成長する社会」「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育」「家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくり」に取り組みますということで、3本の柱を立てたところであります。

そういう中で、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習とか、図書館の運営とか文化財もありますけれども、学校応援団による学校への支援が、ここで本当に子どもたちのために地域の大人の方々がともに学ぶというか、そういうのが着実に進んでいるのかなと私は思っているところでございます。

2番目の「えびなっ子」しあわせプランの推進については、小中一貫教育とかコミュニティ・スクールの導入、そういった事業、それから各学校で学力、集団力、健康安全力といったメンタルな指導が展開されてございます。

3つ目の安全安心な環境と新たな学校施設への取り組みということで、まさに今日、新たな学校施設への取り組みということで海老名市学校施設再整備計画をこの後、提案がござい。それから、ここでは公費負担のあり方ということで、これについても検討委員会を進めて保護者の負担軽減について話し合いを進めて、その取り組みはこの計画に従って今進めておるところでございます。

ただ、4年目ということなので、来年4月には新たな教育大綱をここでまた見直しをして決定したいと考えておりますので、残り3月までの中で、1つは我々も総括をしなければいけないですが、教育委員さん方の意見を聞く。また市民の皆さんの意見を聞いて

て、来年度、平成31年4月に新たな大綱を見直して打ち立てられるように今後進めていきたいと考えております。今年度はそういう年度であるということをご紹介させていただきたいということでございます。

○内野市長 教育長から今話がありました。これにつきましては、ちょうど最終年度になります。最終年度ということは、言いかえれば、ここで本年度中に来年、平成31年度から始まる新たな大綱の策定をしないとイケないという形になりますので、今までの経過とか今までやってきたことを振り返って、教育委員さんからご意見がございましたらお願いをしたいと思います。教育委員さんはそれぞれ定例教育委員会でいろいろ議論されますけれども、こういった場で私もいますから、こういった部分はどうかということ、あるいは今後こういうふうな形でやりたいとか、そういった意見がありましたらどうぞ出してください。よろしくお願いいたします。

○松樹委員 おはようございます。よろしくお願いいたします。教育大綱を定めさせていただきまして、もう3年もたつという形ですので、基本的な考え方というのはそんなにころころ変わるものではないとは思いますが、この3つの柱の下にきている具現化した実践とか、そのあたりは常に見直しを図っていくべきなのではないかなと思っております。

この3年間やってきた中で、達成度だとか進捗状況、目指している方向性をしっかりと検証して、また次につなげていくという作業をやらなければならないかなと思っております。それはもちろん委員会の中だけではなくて、市民の方に見える形の中で進化を図っていくような形で大綱をつくり直していく。上の部分は私は普遍的といいますか、考え方は基本的に変わらないような形で行きたいと思っております。

○海野委員 おはようございます。私もこの3年間検討している中で、それぞれの大綱の内容に基づく学校と教育委員会の取り組みはすばらしいと思っております。特に「子どもたちの今と将来のしあわせのための教育」ということで、それぞれの先生方が目標、計画を立てて、子どもたちのために、教職員を中心として、校長先生がトップとなって指導を強化している姿が見られて、すばらしいことだと思いますので、今後もこの大綱をもとに進めていただけたらと思います。

○酒井委員 私は昨年の12月に教育委員になったので、この大綱に沿って教育がなされているのだなというのをいろいろ勉強させてもらいながらなのですけれども、この中で特に興味があるのは、自分自身も子どもを育てる身なので、保護者の費用負担ですね。いろい

ろ先進的な取り組みをされているなというふうには前々から思っていたのですけれども、1年生になるときの教材費の補助ですとか、柔道着を貸与にしてくれるということとか、そういうことが本当に保護者として身近に感じられる、良い補助をしていただいているなと思います。医療費もそうですが、所得の制限なしに、すべて子どもたちを平等に市としてバックアップしていただいているなと思います。

その上でですけれども、先日、娘が中学校に入った際に、制服がやっぱり高いとか、そもそも中学校の制服って何のためにあるのだろうとか、そういうことを最近では考えるようになりましたので、検討委員会が立ち上がっているということなので、そちらの動きをこれからも注視していきたいなと思っております。

○平井委員 海老名市の教育大綱が作成されてから、海老名市の教育の方向性が明確になったと私は思っています。それは3つの柱を設けたことで各部署の取り組みがはっきりしてきたこと、そして1つ1つの部署で確実な具体的取り組みがされてきたことです。そして、それが今、目に見えてというか、いろいろな形でその結果が出てきている。途中ではありますけれども、事業改善にしてもそうですし、小中一貫のコミュニティ・スクール等の関係についてもそれぞれ歩み出しているところかなと思います。今までは少しぼやけていたところもあったかと思うのですが、これを出してから海老名の教育が動いているなという感じを肌で感じますし、先生方の意識も変わりつつあるのかなと思います。これは教育委員会だけが行っても難しいので、学校と教育委員会が一体となって取り組んでいかなければいけないので、その点ではいい一歩を踏み出しているかなと思いますので、引き続きこの方法でやっていく必要はあるのかなと思います。

それともう1点は、「しあわせプラン」となっていますけれども、この「しあわせ」というのをみんながどんなふうに捉えているのかなと。教育の3本の柱の中に位置づけられています。これは全てを網羅してありますけれども、教育委員会で取り組んでいる「しあわせ」というのは何なのか。衣食住も含めて、全てを含めた中で、生きる「しあわせ」というのをみんなが求めているのかなと思うので、今子どもたちが求める「しあわせ」というのは何なのかというところを聞いてみたい。子どもがどんなふうに思っているのかというところを少し探してみたいなと思います。

○内野市長 各委員さんの話を聞きますと、総括的には大綱の部分は普遍的で、ある程度このままで良い。具体的な取り組みについてどうかと、その部分の検証とか、それを次の5年目についてはどうするかという問題があるわけですね。だから、先ほどの制服につ

いても、今日の新聞にもありましたが、ジャージについては海老名中学校がコンペをやって2,600円安くしたと。それは初めてそういった形をやったということで、新聞でも一定の評価はあったと思うのですね。

ところが、どうしても私が思うことは、スケールメリットがないのです。中学校が6校あって、1、2、3年生全部で3,000人ぐらいいるのです。3,000人を6校で分けると500人ぐらいしかいないじゃないですか。500人のジャージだけを決めると、量が少ないからスケールメリットとしてつらいから、値段が下がるものも下がらない。ところが、3,000人を、一緒じゃないけれども、何種類か選べるような形をとれば、もっと安くなるのではないか。今、学校単位でそれぞれ決めているものを、業者に6校の意向を聞いた上のプロポーザルをしてもらおうとか、そうするとスケールメリットが大きくなる。3,000着注文を受けるわけですね。同じものじゃなくても、上と下があるわけですから1点と考えればいい。そうすることによって違うので、学校で選考委員会を設けるという形でやっていますけれども、今回私自身は初めての試みで一步進歩したと思うのですが、もう少しそれを進歩させて、スケールメリットを求めることによって、制服とかジャージにしたってもう少し下がっていく。

例えば修学旅行も各学校で見積もりをとっているのです。それを6校で一遍に、あるいは13校の小学校で一遍にとって、それぞれの小中学校の言い分、意見は入れたい。それを求めてプロポーザルをやることによって、一業者になる可能性があるのです。入札でしたら単価が安くなりますから、当然そこにスケールメリットは感じられるのではないかと思いますから、そういった部分では今回のジャージは1つのきっかけで、今後、制服の問題とかさまざまあると思うのですが。

教育委員がこういうことを言ったことがあるのです。ブレザーを市で3,000着買ってやる。全部貸与してしまう。3年間が終わったらブレザーを返してもらう。悪くなったら入れかえる。大中小いろいろあります。ズボンとかスカートはそれぞれの学校で、紺にする、黒にする、そういったものは指定すればいいじゃないか。ブレザーは統一的に海老名のものを3,000着公費負担でやっていこう。その話はするのですけれども、中学校で同じのが嫌だと言われるのです。6校それぞれ別々だと。それはちょっと聞きたいのですね。私は海老名の子どもたちは同じ制服でいいなと思っているのですが。

その部分で、先ほど酒井委員が言った制服とは何ぞや、どういう形で使われるのか。中学校で言うと、制服で登校しても、教室へ行くと着がえてジャージで生活をしていると

いう中学校が多いわけですから、制服の考え方というのを根本的に考える必要があるのではないかなと提起はしているのですね。だって初期投資で考えれば、3,000着で2万円しただって6,000万円一回投資してしまえば、あとは悪い制服を直していだけでいいわけですから、そうやって皆さんで回転する。周りの人から引き継いだという制服もありますから、そういった部分が必要なのではないかなと思っていますけれども、これは教育委員会と保護者、あるいは子どもたちにとってどうなのかということで、もう少し議論は深めるべきだと私は思っています。

学校の先生方、大綱について現場として何かありますか。よろしいですか。これは、学校の先生は当然見えていますよね。

保護者の皆さんは何かありますか。具体的な問題は別にして、こういった基本方針を挙げて今進んでいますけれども、何かそれぞれありませんか。具体的なものについてはいっぱいあると思うのですが。

○伊藤教育長 市長と意見が違うという意味ではないのですけれども、私自身、保護者と検討委員会を立ち上げたのは、学校単位で、学校の保護者と教員や地域の人と真剣に話し合っってそういうのを決めてほしいと思っているのですよ。行政が決めるものではないなと私自身は考えているのですね。教育の手法というのは常にそうで、私はコミュニティ・スクールとかいろいろなものをやるのですけれども、全部PTAに聞くし、学校の校長会とは何回も話し合っって進めたいと思うのです。子どもの命とか絶対守らなければならないものは、統一した指針で有無を言わせずやらせるべきだと私は信念を持っていますけれども、それ以外の何を着るとか、何を食べるとかなんかというのは、スケールメリットで安くするという方法はいつも学んでいます、ただ基本としては、その学校の子どものことを思って保護者や教員や地域の人が、どんなことがいいのか子どもにも聞いて何か物事を決めるという、その過程が教育には大事だと思っているところがあるので、もちろん市長さんの意見に賛同しながら、また保護者の意見とか子どもたちの意見を聞いて、それぞれ考えていきたいなど。

もちろん目的は、保護者の負担軽減をどのように捉えるか、修学旅行をどのように捉えるか、それぞれどのように捉えるというところから合意をしっかりと進めていきたいというのが私の思っているところですので、またいろいろやりとりして決めていきたいと思います。これについては、私は海老名の教育長ですけれども、ほかの市の教育長が、伊藤さんは何ということをやってくれるんだといつも言われています。でも、内野

市長のほうが僕よりもっと先へ行っていますので、それはまたそうやってやっていきたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

○内野市長 それでは、教育大綱についてはよろしいでしょうか。大枠としてはこういう形の中で今進んでいますから、あとは細かい部分の文脈とか、それについては一定、教育委員会で再度議論していただいて、直すところがあれば直すという形で、最終の来年度の4月の初めごろの総合教育会議で決定したいと思います。よって、それまでの間、教育委員さんは教育長を中心にいろいろな議論を出していただいて、それを変える部分については、何で変えるかという理屈づけも必要ですから、説明責任をちゃんと果たせるようにさせていただいてやっていくという形でお願いをしたいと思います。

もう1つ、私が思うことは、ここに地域が学校と絡むと言うのですけれども、中学生とか小学校高学年が地域のために何ができるかということも入れてほしいのです。なぜかといいますと、今ごみの問題をいろいろやっていて、高齢者がごみを出せないということがあって、ふれあい収集をやっていますけれども、来年度からごみの有料化を始めようと今方策を練っています。学校の近所に高齢者がいるところにおいて、子どもたちが地域に対して何ができるのか、そういった部分があってもいいのではないかとつくづく感じますので、その部分は一考をお願いしたいと思います。

それでは、(1)の教育大綱についてはここで一定の方向というか、今後の進め方としてやっていただきたいと思います。

○内野市長 次に、協議事項(2)学校施設再整備計画についてを議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

○教育総務課長 教育総務課の中込と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、海老名市学校施設再整備計画(案)についてご説明いたします。資料3ページをごらんください。

海老名市では高度経済成長期に建設された公共施設の老朽化が進んでおり、将来、維持管理や更新にかかる費用が大きな負担となることが予想されることから、平成28年度に海老名市公共施設再編計画を策定しました。この計画は市全体の公共施設の方向性を定めたものであり、公共施設の約半分を占める学校施設についても一定の方向が示されております。

資料3ページの計画の位置づけです。本計画は、先ほど述べた海老名市公共施設再編計

画の分野別計画に位置づけられるもので、老朽化の進む校舎の長寿命化とともに、少子化や将来の学校施設のあり方に対応した施設の再編など、具体的な計画を示すものです。

次に、資料4ページをごらんください。本計画の基本的な考え方です。本計画は学校施設の再整備を行うことで本市の持続可能な行政運営を可能とするとともに、現在及び未来の海老名の子どもたちに夢を与えることができる計画を策定することを目指しました。また、本計画の中で今後10年までの短期計画と、20年後、40年後にわたる中長期、超長期の計画を整理いたしました。

その下の計画の期間につきましては、平成31年度から70年度、西暦で申しますと、2019年から2058年までの40年間でございます。対象となる施設は、市立の学校全19校でございます。見直しの時期といたしましては、児童生徒数の推移などを踏まえ、おおむね10年ごとに見直しを図ることとしております。

次に、資料5ページをごらんください。現状と課題でございます。まず、学校施設の老朽化の状況でございます。建物の多くは1970年代から80年代前半に集中して建設されておりました、約80%が築30年以上となっております。

次に、財政の見通しです。海老名市公共施設再編計画では、公共施設全体の投資限度額を年15億円とされていることから、学校施設にかけられる費用は年7.4億円を目安としております。

その下の児童生徒数の推移と将来予測です。海老名市全体としては40年後にはピーク時の54%にまで減少する見込みでございます。しかし、海老名市の場合、しばらくは海老名駅周辺の開発等により人口増が見込まれておりました、この周辺の学校では児童数の増加に対応する必要があることから、学校ごとに今後の対応は異なっている状況でございます。

次に、資料6ページでございます。学校施設再整備方針でございます。ここまで現状と課題として学校施設の老朽化状況、財政の見通し、児童生徒数の将来予測を行ってまいりました。これらを考えまして、学校施設再整備方針を整理しております。

まず、行政経営を持続可能とするための計画として、資料に示されているとおり、5つの方針を示しております。次に、その下、夢のある計画に向けてということで、今と未来の子どもたちが夢を持って人生を歩んでいくことを目指し、7つの方針を示しております。

次に、7ページをごらんください。今後40年における変化に応じた学校施設の環境向

上、児童生徒数の増減への対応を考慮しながら、持続可能な計画と夢のある計画から学校施設再整備方針を導き出しております。

こちらは40年後までの整備方針の目安をイメージ図にしたものです。本計画の進捗状況や社会的要請、ニーズの変化に応じて適宜フォローアップを行い、その結果を踏まえ、おおむね10年ごとに見直しを行ってまいります。

次に、資料の8ページです。エリア図になります。先ほどの持続可能な整備方針の中で児童生徒数の増加校と減少校への対応というところがございます。こちらは再編エリアの目安を示したものでございまして、学区再編や学校規模の適正化につきましては、5年後の予測が小学校は児童数がおおむね300人を、中学校は12クラスを下回る場合、再編エリアを踏まえ検討を始めることとしております。また、学校再編につきましては、原則エリア単位で検討することとなっております。

下の表につきましては、短期計画になります。向こう10年間は児童生徒数の減少が少ないことが予想されることから、市内19校を適切に維持管理しつつ、施設の老朽化状況を踏まえた改修を中心に実施していくことを想定しております。

次に、資料9ページです。中長期と超長期の計画でございます。上位計画でございます海老名市公共施設再編計画では、学校教育施設の40年間の改築、大規模改修費用を367億円と推計しております。これに基づき、今回策定した海老名市学校施設再整備計画（案）では、今後40年間の学校施設整備費用は318億円になると推計していますので、上位計画よりさらなる削減効果があるものと推計できたものです。

以上で説明を終わります。ご意見、ご質問などあればいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○内野市長 これについては教育委員さんは一定の議論はしていますよね。今回、パブリックコメントをやっていますから、各市民からの意見も出てくるとは思いますけれども、教育委員さん、ここだけはもう一回聞きたいとかありましたら、どうぞよろしくお願いたします。大丈夫ですか。

大きな課題は、はっきり言って40年間やると367億円かかる。40年で割ったとしても、毎年毎年7億円とか8億円かかってしまう。それが実質30年たっているものが40年後は70年を迎えてしまうわけですね。RCの建物としてどうなのかという問題はあるのです。それを使っていくのかというと、歴史ある建造物という形ではありませんから、当然大きな建てかえが今後実施される。その先駆的なものが海老名中学校の新校舎建設なのですね。

海老名中学校は海老名小学校とグラウンドが昔から拮抗していて、あそこは借地が多くて、海老名市はまだ借地料を払っているのです。半分ぐらい借地です。それがお寺さんであったりいろいろあって、それを返還していこうという形もありますし、あるいは小学校を中心として中学校を移設して、小学校をあそこに全面的に持っていく。中学校はどこに持っていくかという、市役所の近くに持ってこようという話も考えています。この部分では地権者の関係もありますから、土地代を抜いて、1つの校舎をつくと大体20数億円かかります。東柏ヶ谷小学校が20億円かかりましたから、小学校でも20数億円、中学校でいくともうちょっとかかるだろうと思います。そこで7年後の関係がそこに出てきますけれども、中学校とか小学校をなくすと言うと、それぞれの地域の人はずごくうるさい。だけど、新しいものに変えるということはオーケーだと思うので、学区の再編が全て出てきますので、ここをこういった方向へ向けてある程度議論していただきたいと思っていますところでございます。

学校現場の校長先生に1つだけ聞きたいのですけれども、小学校のクラスの適正人数、中学校のクラスの適正人数は何人なのですか。国は150人とか定めているんですね。でも先生方が学校運営というか、学校の校長として一番いい、運動会をやったりいろいろありますけれども、何十人学級かは別にして、クラス編成はどのくらいがいいのか。本音の部分でお願いします。

○伊藤教育長 それぞれの考えでいいんじゃない。

○内野市長 それぞれの考えでいいです。

○柏ヶ谷中学校長 柏ヶ谷中学校の上田と申します。中学校だと教室の配置とかいろいろなことも含めて考えると、各学年5クラスがやりやすいかなと個人的には考えています。

○今泉小学校長 小学校ですが、私個人としては3クラス平均ぐらいがいいかなとは思っております。

○杉久保小学校長 個人的にはやはり3クラスが小学校ではいいと思います。

○杉本小学校長 同じように小学校は3クラスが一番いいなと思います。そこは全部がそういう形で、ちょうどいいかなと感じています。1クラスの人数も、班制にもよりますが、30人を超えない程度が一番やりやすいかなと思います。

○今泉中学校長 中学校ですけれども、中規模校はやはり5クラスを中心として、学校行事等を考えて6クラスぐらいまでという形が、校務分掌とか教員の配置も含めて適正な数ではないかと考えています。

○東柏ヶ谷小学校長 東柏ヶ谷小学校は今、2クラスの学年と3クラスの学年があるんですけども、児童の数は各学年ともそんなに開きがなくて、3クラスで1クラスが20数人の学年と、2クラスで1クラス40人という学年があるので、そういった意味では30人未満の3クラスが良いなどは考えます。

○内野市長 ありがとうございます。私も小学校のとき3クラスだったんですけども、運動会のときは赤と白しかできていない。もう1つ色があれば良いなと思ったのですね。クラスが分かれちゃうじゃないですか。赤、白でやって、そうしたら3クラスあるとクラスを分けて赤、白とするから、緑でも入れれば良いじゃないかと思ったのですが。いろいろありますけれども、人数的には30人程度が良いということですね。もっと少なくてもいいわけですけども、30人学級で考えると、学校の現場で聞くとここがポイントなんだよね。そこで小学校の組み立てと中学校の組み立てをやると、数字上でどういう形で持っていけるか。

よくテレビに映る小学校、中学校で卒業式が、小学校1年から6年までで8人程度しかないというところがあるじゃないですか。それでも町は維持しているのですよ。いわゆる僻地になっているから、それを維持せざるを得ないのです。小学校から下宿させるのかという話になってしまうので。そういった部分では、海老名というのは26平方キロメートルですから、学校だって昔は中学校2校、小学校は4校しかなかった。自分も経験していますけれども、私どもは支障があったとは思わない。身近にあるほうが良いのですけれども、少子化を迎えると、こういった現状を把握して最終判断というか、教育委員会でも議論してほしいと思っています。

学校の校舎の改築、新築はすごくお金がかかるので、準備が必要なのですね。準備が必要だと同時に、保護者の説得と、歴史ある小中学校は周りのOBにも左右される。今、柏ヶ谷小学校の横に3市の消防指令センターがあるのです。そこに桜の木があったわけです。切らしてくれと言ったら、俺らが開校のときに植えた桜だから切るなという話になった。南のほうにつくろうとしたら桜の木を切らなければいけない。植えかえますと言っても、「私たちが」という話が入ってしまう。そういった歴史があるから、そこら辺も将来を担う子どもたちがどうなのかということを考えないと、いつまでたっても歴史上でやられてしまうと困るのですね。その部分は相当な説得の時間はかかるだろうと思いますので、7年後に海老名中学校を移設するとなると、この方針を掲げて、来年度平成31年から考えると、準備期間としては相当説得する必要が出てくると思います。しかしながら、海

老名中学校が移設して新しくなったら、給食は食堂だと私は思います。食堂が配置されるということです。そういった部分ではよりよくなる。ICTなどもスムーズに行くだろうと思いますので、今後の教育委員さんもそれぞれ1つの方向を持って、あるいは学校長さんも持っていただかないと困るので、そういった部分を調整していただければなと思います。

保護者の皆さん、この再編計画で何かありますか。自分の母校がなくなるというのは嫌だと思えますが。地方へ行くと、ほとんど廃校状態ですね。新しい小中学校をつくっているのはどこにもありません。保育園も廃園になります。少子化の波が相当押し寄せて、子どもたちがいないという現状がありますので、道路を歩いているのは高齢者の人ばかりと。

よろしいでしょうか。それでは、これにつきましては相当な時間をかけてつくりましたので、予算上の問題はありますけれども、それぞれやっていく。先生方に私からお願いしたいのはですね、19校ありますけれども、一部しか今日はいませんが、海老名市役所は数年前にタイルがはがれて3億円かけて張り直しをした。そのときに安全管理をして業務をやりながらやりました。今、海老名市庁舎は空調が悪いということで、空調を業務をやりながら直しています。学校現場も夏休み、春休み、冬休みを工事期間としないで、通常でクラスに影響がある場合は体育館とか特別教室を使って授業をやっていただいて、1週間のそういった形で動けないかということをやると、1年間のうちにいろいろな工事ができるのです。そうやっていただかないと、19校あるので工事屋さんが集中してしまうんです。そうすると意外と工事費が高くなります。工期を長くすることによって、木のぬくもりがあるとすると、廊下などをやると、順番に1階は今週やろう、2週目は2階でやろうとかとできるので、トンカントンカンと子どもたちの教育環境は若干悪くなるのですが、早期にやりたい場合は、夏休みと春休みと冬休みだけではできないので、そういった部分は協力をお願いしたいと思っています。外壁を直すにしてもペンキを塗りかえるにしても、安全確保は絶対やりますので、授業にできるだけ影響を少なくするような形でやっていきたいと思うので、そのあたりの協力をしてくれないと、いつまでたっても何十年もかかってしまいます。1校ずつやっても19年かかります。19年たつと変わってしまいますから、やる時は集中してどんどんやっていきたいのです。だから、その部分のご協力をお願いしたい。よって、授業は特別教室を使ったり、あるいは体育館にエアコンが入れば、秋とか春は体育館をクラスとして利用するとか、そういった部分のご協力をお願いし

たい。

例えば杉本小学校だったら体育館がクラスになってしまったら、北部公園の体育館を使うとか、海西中学校の体育館がクラスになってしまったら、海西中学校はビナスポの体育館を使うとか、そういった対応策をこちらもちゃんとやりますので、どうか通年の中で工事ができるような形を考えてほしい。これが課題で、そうしないと早期に改修ができないと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、この再整備計画については今、パブリックコメントをやっていますので、保護者の皆さんは意見がありましたら意見をお寄せいただきたいと思ひますし、教育委員会のほうでは具体的に今後進んでいきますので、どこをやっていくか。市長部局のほうでは予算がありますから、どこをやりたいとか、どういった方法が安くなるとか。やり方の問題で安くなるのですね。だから、教育委員会の事務局がいますけれども、安い方法をできるだけ工夫をしていくという形であります。そういった部分を考えながら、工事の手法も検討の時期だと思ひていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○内野市長 それでは、協議事項(3)東柏小学校の児童3名からの学校生活に関する提案についてを受けたいと思ひます。よろしくお願ひします。

司会は岡田部長のほうでよろしくお願ひします。

○教育部長 それでは、次の協議事項に入る前に少しレイアウト変更をさせていただきますので、お時間をいただきたいと思ひます。少々お待ちくださいませ。

それでは、お待たせいたしました。改めまして、協議事項(3)東柏ケ谷小学校児童会から学校生活に関する提案についてご説明をさせていただきます。これにつきましては、東柏ケ谷小学校の児童会の皆さんが直接、市長と教育委員会へ提案をしてくださるということでございます。その提案事項を受けまして、市長と教育委員会が議論をするというものになっております。学校のことを大人の目線だけではなくて、子どもたちの新しい発想とか柔軟な考え、そして夢のある提案等をお聞きして、これからの施策に反映させていただきたい、また参考にさせていただきたいという考えのもと、企画したものでございます。

それでは、児童会の皆さんにご入場いただきたいと思ひます。どうぞ拍手でお迎えてください。

(東柏ケ谷小学校児童会入場、拍手)

(東柏ケ谷小学校児童3名それぞれ自己紹介)

○**教育部長** 東柏ケ谷小学校児童会の皆さん、きょうは本当に参加していただきましてありがとうございます。そして提案を考えてきてくださって本当にありがとうございます。重ねてお礼いたします。

今回は児童会3人の皆さんに自分たちの学校に関する提案を用意していただきました。これから1人ずつ順番にその発表をしていただきます。そしてその後、事務局から提案に対してお答えをしたいと思っております。

それでは、児童会の皆さん、1人ずつ発表をお願いします。

○**児童（1）** 1つ目は、体育館にエアコンをつけてほしいです。理由は、体育館で体育をする予定のときに、暑さで中止になってしまうことがあります。また、体育館は避難所としてお年寄りも使うので、体育館にエアコンをつけてほしいです。

○**教育部長** それでは、事務局から説明をお願いします。

○**内野市長** 市長さんも前からエアコンをつけたい。小中学校は全部、部屋にエアコンをつけたのですね。東柏ケ谷小学校だけは厚木基地が近いからといって昔から何カ所かついていたのですが、小中学校に全部つけました。トイレもきれいにした。今騒がれている温度が高いからという話はもう数年前から出ています。

ところが、体育館の問題というのは、体育館にエアコンをつけたい、避難所だからやりたいたったときに、体育館が今古いなよね。古いところにエアコンをつけたとしても、いわゆる二重手間になってしまうから、体育館を新しくする段階、内装をやるきにつけよう。意外と空調はお金が高いんだよね。これでも1億円ぐらにかかるのではないかと思います。皆さんの家でエアコンを買うと1台10万円とか、ダイキンの大きいのを買ったって50万円だろう。体育館だから6台設置してやればいいのかと提案したのだけれども、教育委員会は使いにくいとか、電源の問題があるのです。学校というのは電源の許容がすごく規制されていて、エアコンを入れることによって電源の変圧器を変えないといけない。その変圧器を変えるのが1000万円かかるのですね。だからエアコンを設置するだけでも附帯工事がかかってしまう。

そうすると、体育館全体と学校の関係、今、学校はLEDの蛍光灯になっているでしょう。全部LED化にしたいんです。それと電源の関係とか配線をしっかりとやって、体育館にエアコンをつけることは今後やっていきたいと思っておりますので、東柏ケ谷小学校の今5年生で、来年つけるというのはちょっと難しいかもしれないけれども、柏ケ谷中学校の体育館にはエアコンはついていませんよね。

○柏ヶ谷中学校長 ないです。

○内野市長 その部分では検討で、中学校を卒業するまでにはつけるということは方向づけができると思いますので、よろしくお願ひしたい。

子どもの要望には弱いよね。大人の要望には、こうやってできるんだけど、子どもの要望というのは弱いですね。だめだと言うわけにいかない。

○教育部長 それでは、次の提案をお願いします。

○児童（2） 2つ目は、学校でプールの授業をしてほしいです。プールは1年に3回しかなく、楽しみにしている人も多いので、行く時間と帰る時間がもったいないので、プールが学校か学校の近くにあってほしいです。

○内野市長 東柏ヶ谷小学校は給食も自校飯でやっていますよね。自校飯というのは、学校で給食をつくっています。ほかの小学校12校はセンターで、食の創造館でつくっています。なぜ東柏ヶ谷小学校を自校飯にしたかというのと、センターから東柏ヶ谷小学校まで持っていく間に時間がかかってしまって、冷めてしまうのですね。だから自校飯にした。それから学校は災害拠点なので、あの地域は東柏ヶ谷5・6丁目の人口密集地なので、避難所としても使おうという形で新しくつくりました。

そのときにプールの問題があって、プールは全校でもうやめてしまって、屋内プール化して、今、北部公園に行っていると思うのですね。今は、あの三角地帯の部分で、皆さんは体育の授業としてプールをやりたいという話ですが、あそこに高齢者の健康の拠点が無いのですよ。そうすると高齢者が北部公園まで行くのは大変なのですね。ところが、東柏ヶ谷1丁目から6丁目までの公共施設の面積ってわかります？ 広さ。1人頭一番少ないよね。そこで考えているのは、何かつくろうと思っても土地が無いのです。物を建てるには土地が必要じゃない。どうしてもつくとすると綾瀬のほうにしかないわけ。皆さんの南側に行くと綾瀬にこぼと幼稚園というのがあるじゃない。あの近くに土地がいっぱいあるじゃない。あそこに海老名の体育館とプールをつくったらおもしろいなど。体育館をつくったときに学校で使ってくれるか、使わないか。行くということがオーケーならば私はつくりたいです。

○東柏ヶ谷小学校長 綾瀬にですか。

○内野市長 綾瀬に。そのかわり、あそこの通りはうちが土地を買うからゾーンが広がるのです。そうすれば、今ある体育館とプールを壊せるのです。壊せると広がるのです。やっぱり地域格差があって、面積が一番多いところと東柏ヶ谷でいくと、公共施設が5分

の1ぐらいしかないのです。だから、そういった部分ではどうしても電車で行かないといけなとかいろいろあって、健康のためと子どもたちのためと考えると、綾瀬に提案をしたのだけでも、綾瀬はそんなのは乗り気じゃない。だけど、綾瀬の隣接の土地に海老名の施設をつくって、海老名の市民は1として、綾瀬市民が使った場合は2倍の料金で使わせてやる。子どもたちは無料にする。昔言われたのですよ、そんなに遠くは行けないと。行けるとしたら考え方は変わるよね。子どもたちにとってどうかということと、あとは地域の高齢者とかそういう面では、土地がうちはないので綾瀬のところを考えていくという形で、今、そういう構想があるのですね。そこを具現化するにはちょっと時間がかかるので、その部分では来年、3回を4回ぐらいに校長先生にしてもらって、よろしくお願ひしたい。北部公園はやっぱり遠いよね。だから日にちと時間の問題だよ、道路状況。それを加味して授業編成もしてもらいたいなと思いますので、よろしくお願ひしたい。今健康の拠点というのは必然的に必要なもので、その部分では考えていく。

東柏ケ谷小学校は狭いので、綾瀬の北の台小学校と東柏ケ谷小学校の統廃合なんです。北の台小学校で土地があるわけですから、あそこに学校を建てる。高学年と低学年に分けるとか、いろいろあると思うけれども、市域を超えた教育の施設が必要だと思います。東柏ケ谷小学校も柏ケ谷小学校もそうですよね。綾瀬から来ている生徒も多いですよ。

○伊藤教育長 綾瀬市からも特に市境の方は柏ケ谷小学校に通っています。

○内野市長 そうだよ。海老名に通っているのです。綾瀬の小学校へ行くよりこっちのほうが近いし、綾瀬の内容より海老名のほうがいい。それは別にして、そういうことでよろしくお願ひします。

○教育部長 それでは続きまして、次の提案をお願いします。

○児童（3） 3つ目は、学校の東北側にもネットをつけてほしいです。東柏ケ谷小学校は校庭にネットが張ってあります。しかし、防災倉庫のある東北側にはネットがありません。そのため、低学年の人が防災倉庫の裏に行き行って遊んでしまいます。学校のルールで決まっているので、僕たちはだめだよと注意しますが、聞いてくれません。誰かがけがをしてからでは遅いので、学校の東北側にもネットをつけてほしいです。

○伊藤教育長 これは学校施設そのもので、市長さんの判断がされるものではないですから、学校とうちの教育総務課の人たちが話し合っ、要するに倉庫の裏のところに低学年が入ってしまうのでしょうか。みんなが注意してもやめてくれないわけでしょう。注意はずっと続けてね。でも、それがちゃんと続けられるような方法は考えてみたいと思います。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは続きまして、次の提案をお願いします。

○児童（１） ４つ目は、校庭の遊具をふやしてほしいです。理由は、今、学校にはうんていやのぼり棒などがありますが、そういうのが得意な人しかできません。なので、滑り台とかブランコなどが欲しいです。

○伊藤教育長 私が一番うれしいのは、今言ってくれたことで、のぼり棒とか鉄棒だと得意な人しかできないよね。そうじゃなくて、あまり体育が得意じゃなくても遊べるような遊具があってほしいなという気持ちがすごくよくわかって、そうやって子どもたちというのは、東柏ヶ谷小学校のみんなのことを考えているところがすごいなと思いました。ただ、ブランコを設置すると、東柏ヶ谷小学校の今の校庭に柵をつけると、校庭がもっと狭くなってしまったりするよね。ほかのもそうなの。だから、何かあなたの思いで、運動が苦手な人も遊べるような遊具は考えられるかもしれないから、ブランコ等についてはまた話し合う必要があるかなと思います。

特に小学校の校庭には遊具のそういうものはだんだんなくなっていっているのです。今、有馬小学校のほうにはあるのです。でも、有馬小学校には実は近くに公園がないのです。緑が多いところですから。近くにブランコがあるような公園がないから学校の中にあるのです。皆さんの近くにはブランコがあるような公園があるかもしれないので、そういう意味で学校の遊具については考えている。でも、あなたが言う運動の苦手な人も楽しめるような遊具はいろいろ考えてみたいなと思っております。

○教育部長 よろしいでしょうか。

それでは、５つ目の提案をお願いします。

○児童（２） ５つ目は、図書室の本をもっとふやしてほしいです。図書室には7,000冊から8,000冊ぐらいありますが、ほとんどが昔からあるもので、読み終わったりして興味がないから読まないという人がいるので、角川つばさ文庫や青い鳥文庫などを入れてほしいです。

○伊藤教育長 これは松樹委員から言っていたほうが。

○松樹委員 突然振られましたけれども、図書館の本というのは、お金をかけて入れているのですけれども、ぜひみんなで、こんな本を買ってほしいという提案をどんどんしてほしいなと思いますし、今日校長先生などがいらっしゃいますが、児童会とかで図書委員とかを通じて、こんな本を入れてほしいという子どもたちのリクエストを集めるようなこと

は、そんなに難しい話ではないと思いますので、ぜひ受けとめていただいて、すぐ実行できる話だと思いますので、お願いしたいと思います。どんどんこんな本を買いたいですというのを先生に言って、その分のちゃんとしたお金、予算はついておりますので、この本を買ってくださいというリクエストをどんどんこれからも上げてほしいなと思います。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは次の提案をお願いします。

○児童（3） 次は、これは要望ではなく、東柏ケ谷小学校のいいなと思うところです。東柏ケ谷小学校では登下校中、地域の人がたくさん見守ってくれます。なので、毎日安心して学校に通うことができます。

○教育部長 どうもありがとうございます。

○内野市長 きょうの要望で具体的にすぐできる、3番と5番はすぐできると思うので、3番と5番はやってみたいと思っています。5番については松樹委員も言いましたとおり、学校へ要望していただければできるので、3番と5番だけはできます。

1、2、4で、4番は校庭の広さがありますけれども、今、オリンピックで上っていくじゃないですか。ボルダリング。あれは壁だから、何かそういうのをつくってあげたら。下を安全にして。高さはそんなに要らないじゃない。そういったことでオリンピック選手が育つかも说不定いよ。校庭が狭い場合は、ボルダリングを安全なものとして考えていくというのも必要ではないかと思います。そういった形というのは、これからは考えていかなければいけない。

今、運動公園の再編計画でそれをつくろうとしています。ボルダリングの本格的なものを運動公園でつくろうという話になっていますから、それだけスポーツは多岐にわたっていますから、そういったことも考える必要があるのではないかと考えています。

あと1、2番については時間がかかりますので、特に2番はすごく問題があるので、1番については期待を持って、中学校卒業までには柏ケ谷中学校にはエアコンが入るということはあるだろうと思っていますので、よろしくお願ひしたい。

○教育部長 ありがとうございます。

それでは、児童会の発表をなさった皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

○伊藤教育長 せっかく来たので、何か思ったことがあったら。時間がありますので、私から3人に1個だけ質問なのですけれども、東柏ケ谷小学校は東柏ケ谷にあって、周りに

家があったり校庭が狭かったりするのだけれども、私はあいさつ運動とかに行くと、いつも良い学校だなと思っているのですね。そういう意味で、3人の1人1人に自分の学校の自慢とか気に入っているところを聞いてみたいと思うのですが、いいですか。

○児童（1） 私は、校舎の黄色い色が好きです。理由は、嫌な気持ちのときに、この校舎を見ると優しい気持ちになれるからです。（拍手）

○児童（3） 僕が良いと思うところは、地域の人たちがたくさんかかわっていることです。理由は、先ほども言ったとおり、登下校中のほかにも運動会、畑、1週間に1回来てくれる読み聞かせなど多くの地域の人たちが来てくださいます。そんな東柏ケ谷小学校は僕は世界一良い学校だと思っています。（拍手）

○児童（2） これは良いところというわけではなく、これからこうしていききたいというのですが、私は当たり前の方が当たり前でできる学校にしていきたいです。当たり前のことが当たり前でできると、安全で勉強に集中できる学校になると思います。そして、東柏ケ谷小学校の児童会のメンバーとして今まで以上に1人1人が安心して過ごせる学校にしていきたいと思います。（拍手）

○内野市長 学校は楽しいですか。楽しい。本当に楽しい？ 学校に行きたくない人はいない？ すごいな。市長さんはね、学校は大嫌い。小学校のときから中学校へ行きたくなくてしょうがなかった。学校へ行くと憂鬱なの。牛乳が嫌いで、小学校1・2年のとき不登校になって、冷たい牛乳を1本飲まされるのが嫌で、それだけで相当不登校になりましたけれども。楽しいんだ。いいなあ。学校が楽しいってみんな言います。そこがすごく良いなと思います。私たちの年代は学校が好きだというやつはいなかった。行かないとたたかれちゃうとか、そういうのがあったから、そこは違うのだろうね。それは皆さんの成果ですね。では、私たちの教師が悪かったかという、そうではないと思うのだけれども。

何か聞きたいことがあったら。

○酒井委員 私も小学校5年生の娘がいるので、とてもしっかりと話せてよかったなと思います。ありがとうございました。1つお尋ねしたいんですけども、市のほうからプールのチケットをもらいますよね。これで北部公園とか行けますよというのをもらうんですけども、周りのお友達も含めて、そこに行っている子がいるのかなというのと、あと夏休みとかに行きたくても遠くてなかなか行けないんじゃないかなと思うのですが、そういうときに学校からプールに行くバスが出たりとか、前はあったけれども、なくなってしまったじゃないですか。個人的にはバスがあったらよかったのにな、1・2年生のころ、あ

れに乗って、お友達とプールに行くのがすごく楽しみだったのに、何だかいつの間にかチケットはふえて、バスはなくなって、自分で自転車で行くか親が送っていかないと行けないのだったら行けないような感じにうちはなっているのですけれども、どうなのか、よかったらお話ししていただませんか。

○伊藤教育長 プールは行っていた？ あまり行っていない？（児童3に）今年、お父さん、お母さんに何て言われたのかな。

○児童（3） 暇ならこの時間にプールへ行けと言われた。

○伊藤教育長 バスは。

○児童（3） それはあったほうが良いと思う。復活してほしいですね。

○児童（1） 私は、プールのバスはあったほうが良いと思います。でも、私はそんなにバスとかを使わないのですけれども、北部公園に行くときに自転車とかで行くのは大変だと思うので、あったほうが良いと思います。

○児童（2） 自転車とかで行くのは安全ではないところもあるので。バスはあったほうが良いと思います。

○伊藤教育長 海老名市でそれをずっとやってきました。ただ、実際のところその利用率は非常に低くなって、そのたびに学校に行くのだけれども、1人も2人も乗っていないときもあつたり、空のままということもありました。そういう中で、もちろん子どもたちには使ってねと言っていたけれども、小学校のときにはやはり誰か1人ぐらい乗ってほしい。児童（3）さんのお母さんは杉久保小学校のとき私が担任の教員なものですから知っていました。びっくりしたのですけれども、それで話をしたら、「お父さんとお母さんが、『暇ならプールへ行け』と言うからさ、プールに行くのにバスがないと困るんだ」と言うから、そのときに彼といろいろ学校で話したのですけれども、困っていることは事実だ。でも、さっきのように海老名市として2～3年やった結果として、そのように考えました。もう1つは、プールという形ではなくて、今、学校のプールをなぜ我々が中止したかという、あのときいろいろなところでプールの事故があつて、プールの安全を先生たちが確保するのがとても難しく、そうなったときに安全で、またプールというのは学校で6月から7月のときに開いても、ひどいときには1回も2回も入れない。外にあるので、気温が低いし水温も低いというのがあつたので、その中で市長さんと私どもは話をし、子どもたちが完全に確実にプールの日を確保するには、たまたま海老名には市内に4カ所のプールがあるからということで、ただ、あなたが言うように、東柏ヶ谷は交通事情

を考えると時間はかかるよね。そのことは教育長も悩んでいます。あと回数についても、市長さんは3回を4回にとか言ったけれども、それは市教委の問題なのでまた検討します。

○内野市長 1つだけできるのは、ぬくもり号が走っているのですよ。そのぬくもり号は高齢者が乗るのですけれども、プールの7月、8月、夏休み期間中は子どもたちも乗って良いことにすればいいのです。これは無料なので。高齢者ばかり集まったものより、子どもたちと一緒に行動したほうが高齢者にとっても多分良いのですね。今、ぬくもり号はワゴン車なので、大型化することは道が狭いのでできないんです。だから、その部分は教育委員会と社協で少し話してみたら。特に東柏ヶ谷小、5・6丁目、4丁目の人たちは遠いので、そこにはぬくもり号が定期的に走っているから、そこからぬくもり号に乗って良いか。プールに行きたいという時間はちょうど暑い時期だから、高齢者は外出していない時間なので、その部分をうまくやれば結構効率的にぬくもり号を運行できる。それをちょっと考えてみたら。

○海野委員 私も5年生の孫がいるのですけれども、皆さん、学校でクラブ活動に入っていると思うのですが、どんなクラブ活動に入っていて、どんな楽しいことがありますか。

○児童（3） 僕は調理クラブに入っています。おもしろいことですか。

○伊藤教育長 何をするんだろう。

○児童（3） みんなでお肉を食べたりとか。

○児童（1） 私は手芸クラブに入っています。でもたまたまクラブのときに早退してしまって、一番楽しみにしていたマスコットづくりができなかったのですが、次に楽しみにしていることは、11月？ 1月？ のマフラーづくりが楽しみです。

○児童（2） 私も手芸クラブです。手芸クラブは女の子しかいなくて人数も少ないので、話をするときとかがすごくシーンとしていて、つくっているときはしゃべりにくくて、ちょっとそこところは嫌かなと思っているのですけれども、でも、静かだからこそ集中してできるというところが楽しいです。

○松樹委員 皆さんの学校は海老名市で唯一、自校式と言って自分のところで給食をつかって、ランチルームでの給食は温かくておいしいと思います。こんな質問で申しわけないのですが、好きなメニューを教えてください。何が一番好きですか。

○児童（3） ハーブチキンが好きです。

○児童（1） 私も同じで、ハーブチキンが大好きです。

○平井委員 私は、皆さんが学校が楽しいと言ってくれたのが何よりうれしいですね。今まで子どもたちと生活をしてきていますので、学校に楽しく来てくれるというのが先生にとったら一番のうれしいことです。皆さん、楽しく学校に行ってくださっているというのは本当にいいなと思います。

そして児童会の役員として学校全体を見て、きょうもいろいろな角度から提案をしてくださっている、これもとてもうれしいなと思います。先生たちもいろいろ学校生活の皆さんの中で気がついたことは改善したりとかしているのですが、また皆さんの目でこうやって見てくださって提案をしてくださったのはすごくうれしいと思います。

そして5月に運動会がありましたね。私は見学に行かせていただいたのですが、本当に感激しました。何に感激したかという、皆さんの真剣さです。一生懸命に取り組むその姿に、私は心を打たれました。日々何か一生懸命に取り組む姿というのは本当にすばらしいですね。5年生です。あと1年間、東柏ヶ谷小学校のためにぜひぜひ頑張ってもらいたいと思います。ご苦労さまでした。（拍手）

○教育部長 ありがとうございます。それでは、ここからは市長の進行でお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○内野市長 どうもありがとうございます。皆さん、大きな拍手で。（拍手）

では、その他の部分で何かございますか。総合教育会議なので、先生方がいるので1つだけ提案なのですけれども、中学校で今、大谷中学校で、今度は補正予算をとるために教育委員会で米飯給食の関係の試験実施を行いますよね。1つだけ提案ですが、今どこも、来年選挙なので中学校給食をやろうと首長が言い出している。あるいは教育委員会の提言として市長部局は動いているので、私が思うには、米飯だけ試験実施したら評価を受けたという形もあるのですけれども、給食という定義をするとすごく大変なのです。例を挙げると、1年間に2回ぐらい中学校で崎陽軒のシウマイ弁当をみんなで食べるとか、あるいはカレーの日をつくってみるとか。言っているのはわかります？ 給食をやると、カレーだけだとカロリーが大変だからサラダをつけるとかいろいろ考えるのですよ。中学生は楽しみ昼食を試験的にやってみたらおもしろいのではないかな。

例えば海老名には中村屋もあるのだけれども、神戸屋というパン屋もあるのですね。パンの日と決めて、神戸屋から一斉に、全6校は無理なのだけれども、順番にいろいろなパンをやるのです。それはお楽しみ昼食だから、お金は別。全額市が負担するか、半分半分にすることは別ですけれども、そういった形で市内の業者が、神戸屋さんにかかわらず、サ

ンドイッチの日とかそういうのを決めて、中学生に選んでもらうという日も必要なのではないかと。そういうことを繰り返しながらいろいろなことを考える。

学校給食という、給食ということが今の中学生に当てはまるかということを考える時期に来ているのではないかと私は思うのです。小学生は栄養価の問題をすごくやっていますけれども、中学校になると年間1,000食食べるのに、365日3食食べるのに、中学校で給食が決めているのが160食ぐらいなのです。16%で、栄養評価が何とか、こういう問題ではなくて、嗜好が始まってしまうし、選択の余地を残した部分で考えていく時代ではないかと思うので、もう一回議論を進めてやってほしいのです。

そうしないと、選挙をやるたびに中学校給食復活だとか、私ははっきり言って政治家としてくだらないと思うのです。子どもたちのためなのに、親がつくるのが大変だから給食にしてくれと。子どもたちのためにとってどうなのかと思うわけ。給食というイメージを置くと、添加物が入ったものはだめだ、何とかと言う。それでは例えばの話、マクドナルドへ年間一回も行かないのですか、すき家の牛丼を食べないのですか、吉野家の牛丼を食べないのですかとなるわけじゃないですか。そうすると、みんな栄養評価を考えて家庭で全部つくっているわけではないです。小学校は必要になる。中学校ではお楽しみ昼食にして、給食にしないで、何かそういうおもしろいことを考えていったほうが良いのではないかなというのが私からの提案なので、それは議論してほしいと思うのです。

どこの選挙公約を見ても、みんな首長が中学校給食復活だというのは、来年、統一地方選挙が4月にあるから始まっていくのです。それだってセンターで設備投資をすると何十億円もかかっていく。では200円ずつ昼食の補助金を出したら、1年間で1億2,000万円で終わりです。それを10年続けたって12億円です。物をつくったって維持しなければいけないじゃないですか。そこにはランニングコストがかかってくる。そういった面で考えると、何が良いのかという問題は教育委員会で再度、中学校給食の復活ではなくて、中学校給食というそのものが私は中学校は昼食だ、昼飯だ、そういう感覚で物事を考える時代ではないかと思うので。給食をやると授業の関係では学校も空き時間がないので大変なのです。給食でやると一定の時間が必要になってしまうから大変だ。だけど昼食というのはあくまでもできるわけだから、その部分を考えていくことも必要ではないか。今回、米飯を試験的に実施することは良いのですけれども、今後どうするかという方針は教育委員会でつくっていただきたいと思っていますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。私は給食ではなくて、昼食だと思ひます。よろしくお願ひします。これで締めていい

のかな。それでは、岡田部長よろしく。

○**教育部長** ありがとうございました。それでは、事務連絡をさせていただきます。次回は11月18日、日曜日です。9時30分から杉久保小学校の体育館での開催を予定しております。皆様の参加をお待ちしております。

それでは、以上をもちまして第2回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。（拍手）

東柏ヶ谷小学校の皆さんもお疲れさまでした。ありがとうございました。（拍手）